

横須賀市教育委員会では、子どもの読書活動の推進に関する法律第9条第2項の規定に基づき、子ども読書活動推進計画を策定します。

目 次

第1章	子どもの読書活動をめぐる動向	
1	子どもの読書活動の意義	1
2	子どもの読書環境の変化	1
3	国・県・本市の動向	2
第2章	第3次計画期間の成果と課題	
1	第3次計画の概要	3
2	アンケート調査からみられる現状	3
3	第3次計画の成果指標達成状況	7
	《第3次計画における取組の体系》	8
4	第3次計画の成果と課題	9
	(1) 重点1【家庭における読書活動の推進】	9
	(2) 重点2【小中学校における読書活動の推進】	10
	(3) 第4次計画に向けた課題	11
第3章	第4次計画の具体的な取組	
1	基本方針・目標	13
2	対象	13
3	計画の期間	13
4	第4次計画 取組の体系	14
5	成果指標（数値目標）	15
6	主な事業内容	16
	子どもの発達段階に応じた取組	
	(1) 乳児期	16
	(2) 幼児期	17
	(3) 小学生	18
	(4) 中学生	19
	(5) 高校生	20
	環境整備	
	(6) 市立図書館の充実	20
	(7) 関係機関・団体との連携	21
	(8) さまざまな障害のある子どもや、外国語を母国語としている 子どもへの読書環境の整備	21
7	進行管理	21
	関係資料	22

第1章 子どもの読書活動をめぐる動向

1 子どもの読書活動の意義

子どもは読書活動を通じて、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かにし、多様な文化や世界を理解します。さらに、文学作品に加え、自然科学・社会科学等の知識を読み深めることにより、自ら学ぶ楽しさや知る喜びを体得し、更なる探究心や真理を求める態度が培われます。

これらは、子どもが人生をより豊かに、そして主体的に生きていく上で欠くことのできないものであり、そのために読書環境の整備を社会全体で推進していくことが極めて重要となります。

2 子どもの読書環境の変化

第3次計画策定から4年が経過する中、子どもを取り巻く環境は、近年、生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新により、社会構造や雇用環境が大きく、急速に変化し、予測が困難になっています。さらに新型コロナウイルス感染症拡大に伴う影響も深刻です。休校やリモート授業の検討、新生活様式の導入など、学校生活にも大きな変化を与えました。

一方、子どもたちが情報通信技術（ICT）を利用する時間は増加傾向にあります。令和3年度から、本市の小中学校では1人に1台の端末が配置されました。また、スマートフォンの利用、家庭でのPC・タブレットの普及により、電子書籍も選択肢の1つとなりました。さらに、通信ゲームやSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）の多様化により読書以外に興味ある分野が増大するなど、子どもを取り巻く読書環境の変化も急速に進んでいます。

その中で、子どもが様々な変化に主体的に向き合い、多くの情報から、正しい情報や目的に合った情報を選択する能力を持ち、その情報を基に自分の考えを形成し、表現するなど「新しい時代に必要となる資質・能力」を育むという観点からも読書活動の重要性が高まっています。

3 国・県・本市の動向

子どもの読書活動をめぐる国、県及び本市の主な動向は次のとおりです。

年	主な動向（国・県・市）
平成13年	〈国〉 「子どもの読書活動の推進に関する法律」の公布・施行
平成14年	〈国〉 「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」
平成16年	《県》 かながわ読書のススメ～ 神奈川県子ども読書活動推進計画～
平成17年	〈国〉 「文字・活字文化振興法」の公布・施行
平成18年	〈国〉 「教育基本法」の改正
平成19年	〈国〉 「学校教育法」の改正 【市】 愛読プラン(第1次計画)(6年間)
平成20年	〈国〉 ・「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」(第二次) ・学習指導要領(小学校・中学校)・幼稚園教育要領 ・保育所保育指針 ・「図書館法」の改正
平成21年	〈国〉 ・学習指導要領(高等学校・特別支援学校) 《県》 「かながわ読書のススメ～第二次計画～」
平成22年	〈国〉 「国民読書年」の取組(平成20年6月国会決議)
平成25年	〈国〉 「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」(第三次) 【市】 第2次愛読プラン(5年間)
平成26年	〈国〉 ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 ・学校図書館法の改正 《県》 「かながわ読書のススメ～第三次計画～」
平成29年	〈国〉 ・学習指導要領(小学校・中学校) ・幼稚園教育要領 ・保育所保育指針 ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改正 ・特別支援学校学習指導要領(小学部・中学部) ・特別支援学校教育要領(幼稚部)
平成30年	〈国〉 ・学習指導要領(高等学校) ・「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」(第四次) 【市】 第3次愛読プラン(4年間)
平成31年 (令和元年)	《県》 「かながわ読書のススメ～第四次計画～」 〈国〉 ・視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律(読書バリアフリー法)の公布・施行

第2章 第3次計画期間の成果と課題

1 第3次計画の概要

第3次計画では、「子どもの心豊かな成長につながる読書習慣を確立する」という目標を掲げ、以下の3つの基本方針を策定しました。

- 1 家庭・地域における子どもの読書活動の推進
- 2 学校・保育園・幼稚園における子どもの読書活動の推進
- 3 関係機関・団体等における子どもの読書活動の推進

重点事業として、乳児期の「ブックスタート事業」で絵本の読み聞かせを実施するとともに、3歳児健診時の「ブックリストの配付事業」につなげることにより、読書を継続する働きかけを行いました。小中学校では、「魅力ある学校図書館づくり」を目指し、授業において学校図書館が利用しやすくなるなど、学校図書館の活性化につなげました。赤ちゃんから高校生まで、継続した読書活動を推進することで、子どもたちの読書習慣の確立を目指しました。

また、図書館・学校・関係機関等の連携により、子どもたちの身近に、本に親しむための読書環境を整える事業を展開し、子どもたちの豊かな心を育み、生きる力につなげることを目指しました。

2 アンケート調査からみられる現状

本市における子どもの読書の実態を把握し、次期計画に反映させるために横須賀市立の全小中高校のうち、対象学年の抽出1クラスに対してアンケートを実施しました。(令和2年11月が対象月)

～横須賀市の児童生徒の読書実態調査～

① 児童生徒に対する調査結果から

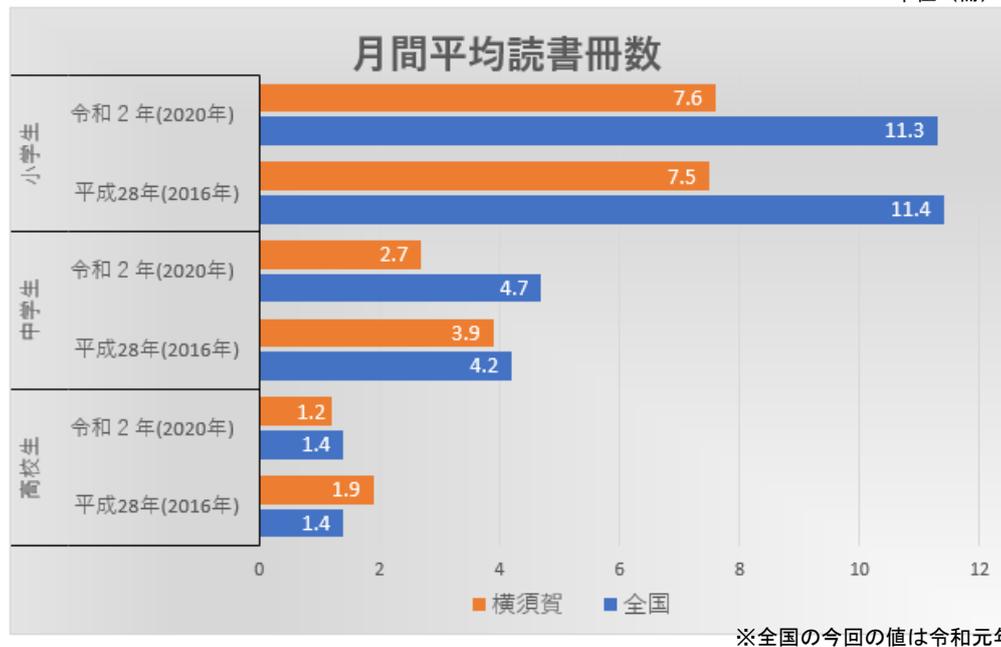
月間平均読書冊数全国比較

単位(冊)

		今回 令和2年(2020年)			前回 平成28年(2016年)		
		本	雑誌	マンガ	本	雑誌	マンガ
小学生	横須賀	7.6	1.2	10.4	7.5	1.5	8.5
	全国	11.3	3.0		11.4	3.7	
中学生	横須賀	2.7	0.9	9.3	3.9	1.7	9.8
	全国	4.7	2.3		4.2	1.7	
高校生	横須賀	1.2	0.5	4.7	1.9	0.7	6.0
	全国	1.4	0.9		1.4	1.3	

※全国の今回の値は令和元年

単位（冊）



ア. 本市の小中学生の本・雑誌の月間平均読書冊数は、平成28年、令和2年ともに全国平均を下回っています。また、本市の過去との比較では、小学生が微増なもの、中学生・高校生の冊数は減少しています。なお、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため学校が休校になった影響は、令和元年度と令和2年度の比較になりますが、本について小学生は8.4冊から7.6冊へ減少し、中学生は2.3冊から2.7冊に増加しました。小学生は、学校図書館の閉館した期間があったことが、中学生は読書に使う時間が増えたことが、それぞれ読書量の変化に影響したと考えられます。

月間平均読書冊数（各年度比較）

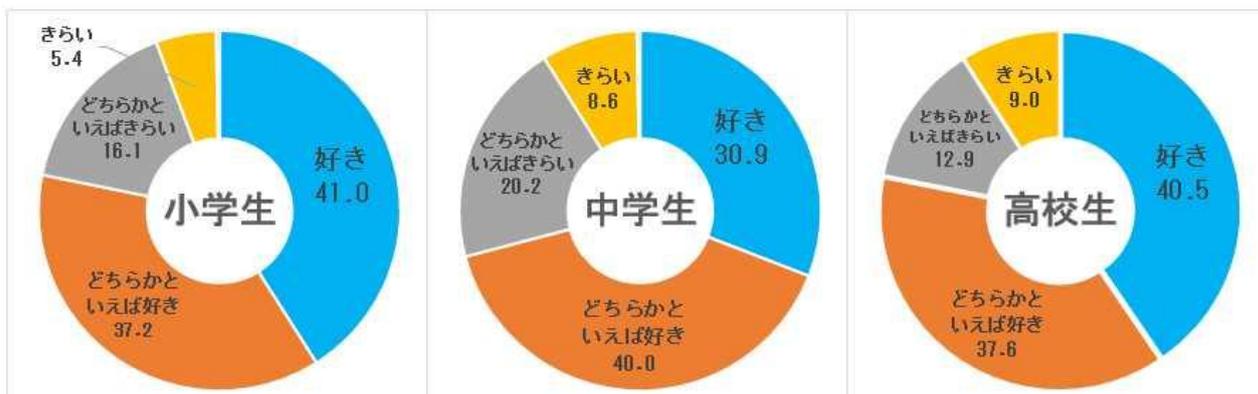
小・中	市・全国	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	目標値
		2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	
小学生	横須賀	7.5冊	7.5冊	7.1冊	8.4冊	7.6冊	9.8冊
	全国	11.4冊	11.1冊	9.8冊	11.3冊	調査未実施	
中学生	横須賀	3.9冊	2.8冊	2.7冊	2.3冊	2.7冊	5.1冊
	全国	4.2冊	4.5冊	4.3冊	4.7冊	調査未実施	

※高校生は計画策定時のみ調査しているためデータなし

イ. 本を読むのが好き、どちらかといえば好きと回答した児童生徒を合わせると、小学生は78.2%、中学生は70.9%、高校生は78.1%で、多くの児童生徒が読書に対して好感を持っています。

本を読むことが好きか

単位 (%)



ウ. 本を読むのが好きか嫌いかで、本の読書冊数に大きな差があり、小学生の場合、本を読むのが好きと回答した児童の月間読書冊数は12.1冊で、きらいと回答した児童は2.3冊となっています。中学生も同様に、本を読むのが好きと回答した生徒の月間読書冊数が5.8冊、きらいと回答した生徒は0.5冊となっています。

エ. 学校図書館の利用調査では、よく利用する、ときどき利用すると回答した割合は、小学生では55.4%と半数以上になっているのに対し、中学生では21.4%、高校生では37.0%となっています。

利用しない理由を見ると、小学生と中学生は「本は買うことが多いから」が一番多いのに対して、高校生は「行く時間がないから」が一番多くなっています。

学校図書館利用

単位 (%)

区分	よく利用する	ときどき利用する	あまり利用しない	利用したことがない	無回答
小学生	16.3	39.1	35.2	8.6	0.8
中学生	4.3	17.1	39.6	38.1	0.9
高校生	11.2	25.8	29.8	33.2	0.0

②学校に対する調査結果から

ア. 朝の読書（10分間読書）等を実施しているのが小学校で46校中39校（84.8%）、中学校で23校中10校（43.5%）となっており、教科外での学校教育活動にも読書が取り入れられているといえます。

イ. 学校図書館の開いている時間は、小学校では「常時開いている」が21校（45.7%）で、昼休みについては46校すべてが開館しています。中学校でも「常時開いている」は0校ですが、昼休みは23校すべてが開館しています。このことは、読書活動推進の実績ととらえています。今後は、授業中も含めた常時開館を問う設問は、学校施設の安全管理の実情から困難なため、見直しを検討します。

学校図書館の開いている時間はいつか

学校区分	調査年	学校数	常時開いている	一定時間開いている
小学校	令和2年 (2020年)	46校 (100.0%)	21校 (45.7%)	25校 (54.3%)
	平成28年 (2016年)		37校 (80.4%)	9校 (19.6%)
中学校	令和2年 (2020年)	23校 (100.0%)	0校 (0%)	23校 (100.0%)
	平成28年 (2016年)		1校 (4.3%)	22校 (95.7%)

3 第3次計画の成果指標達成状況

第3次計画で設定した成果指標は次のとおりです。

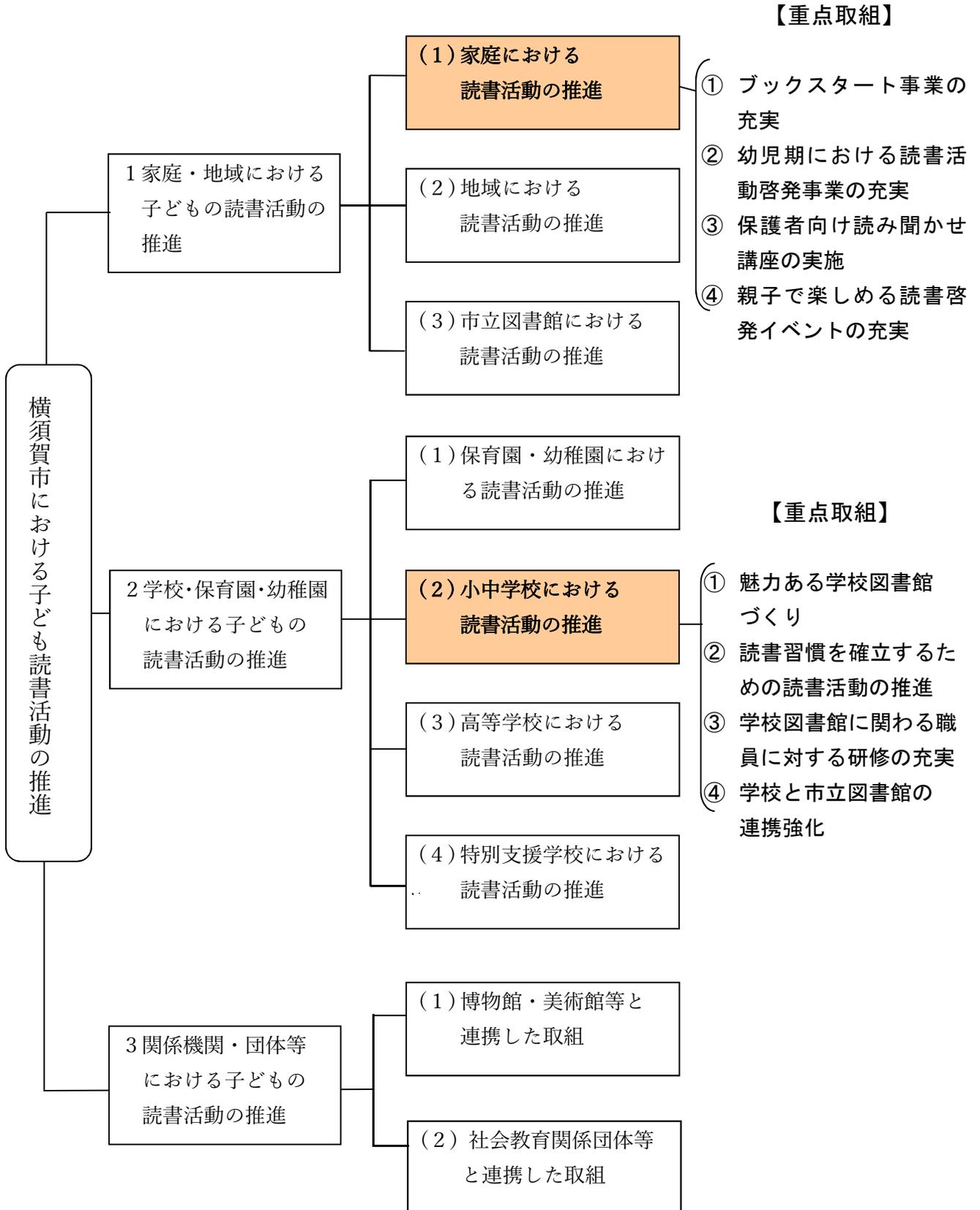
令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大予防の影響で、学校の休校や、市立図書館・学校図書館の休館期間があり、読書を推進する環境が整わない時期もありました。この影響が大きく、開始年度を下回る指標もありました。

第3次計画の成果指標と実績

	指 標	単位	現 状 値 平成28年度 (2016年度)	実 績 令和2年度 (2020年度)	目 標 令和3年度 (2021年度)	
1	1カ月間の 平均読書冊数	小学生	冊	7.5	7.6	9.8
		中学生	冊	3.9	2.7	5.1
2	1カ月に1冊 以上本を読む 子どもの割合	小学生	%	88.9	88.5	96.0
		中学生	%	58.1	65.3	72.0
3	市立図書館における 児童書の貸出冊数	冊	459,616	391,610	488,000	
4	子どもに本の読み聞かせ をした割合	%	30年度 (2018年度) 77.6	80.7	90.0	
5	市立図書館の本を調べ学習等に 活用している学校 の割合	小学校	%	58.7 (27校/46校)	58.7 (27校/46校)	100 (46校/46校)
		中学校	%	17.4 (4校/23校)	21.7 (5校/23校)	100 (23校/23校)
6	子どもが行ける 時間帯には学校 図書館が常に開 いている学校の 割合	小学校	%	80.4 (37校/46校)	45.7 (21校/46校)	100 (46校/46校)
		中学校	%	4.3 (1校/23校)	0 (0校/23校)	34.8 (8校/23校)

参考

《第3次計画における取組の体系》



4 第3次計画の成果と課題

第3次計画では、基本方針の中から、「家庭における乳幼児に対する取組」と「小中学生に対する取組」を重点としました。それぞれの重点における取組事業の成果と課題は以下のとおりです。

(1) 重点1【家庭における読書活動の推進】

①取組事業と成果

- ・ブックスタート事業の充実（市立図書館）

成果 BCG集団予防接種事業と合同開催のため、100%近くの赤ちゃんと保護者に絵本等のブックスタートパックを配付し、読み聞かせを行い、家庭の読書環境づくりの支援を実施しました。（新型コロナ感染拡大予防のため、読み聞かせを中止した期間があります。）

- ・幼児期における読書啓発事業の充実

（市立図書館・こども健康課）**拡充事業**

成果 幼児向けブックリストの配付事業を、3歳児健診事業と合同開催として実施したため、「3歳・4歳・5歳用のブックリスト」と利用案内の配付を100%近く実施できました。

- ・保護者向け読み聞かせ講座の実施（市立図書館）

成果 市立図書館で、親子参加のおはなし会において、読み聞かせの大切さや実施方法についてアドバイスを伝えました。

- ・親子で楽しめる読書啓発イベントの充実（市立図書館）

成果 人形劇、絵本作家とのワークショップ、本のレンタルセットなど、様々なイベントを実施して、親子で図書館に来館し、図書館と本に親しむ企画を実施しました。

②課題

乳児期・幼児期への取組は、読書習慣の基礎を築く大事な時期であることから、今後も継続して取り組む必要があります。

ブックスタート事業は、読み聞かせの会場が隣接でなくなったことから、読み聞かせの体験を希望する保護者が減少する傾向にあります。また、新型コロナ感染予防のため、各種イベントごとの定員を縮小するなど、参加人数が減少する傾向にあります。今後は、新しい時代に対応した事業展開の工夫が求められます。

(2) 重点2【小中学校における読書活動の推進】

①取組事業と成果

- ・魅力ある学校図書館づくり（教育指導課）

成果 学校司書を全小学校と中学校8校に配置し、学校図書館の質の向上に努めました。具体的には、図書を購入する際、司書教諭とともに選書を行い、魅力ある配架の工夫なども実施しました。

授業で活用できる図書が充実したことにより、授業での学校図書館の利用が活発になりました。

- ・読書習慣を確立するための読書活動の推進（教育指導課）

成果 市立学校で読書感想文・読書感想画コンクール等様々な取組を実施し、読書感想画展で作品を公表することにより、読書の楽しさや読書が果たす役割について、子どもをはじめとする市民に広めることができました。

- ・学校図書館に関わる職員に対する研修の充実（教育指導課）

成果 学校司書については、年間を通して複数回の研修及び情報交換会を実施し、司書教諭や学校図書館担当者向けの研修も実施し、読書活動推進の啓発を行いました。

- ・学校と市立図書館の連携強化（市立図書館・小中学校）**拡充事業**

成果 市立図書館が作成したブックリストを、夏休み前の児童生徒に全員配付するなど、読書の時間を持てる時期に連携して効果的な啓発を実施しました。

市立図書館の蔵書を、学校の授業で利活用できるよう、特別貸出カード（50冊まで1か月貸出し）で借りた本を、宅配便を使って貸し出す「学校配送便」を実施しました。

②課題

現代の児童生徒は、余暇時間が少ない傾向にあるため、学校で実施する読書活動の推進が非常に効果的です。しかし、毎日の朝読書などを市内の学校全体で取り組むことについては、学校ごとに取り組む優先順位が異なるため、困難な状況です。

発達段階に応じた読書活動推進のアプローチが必要となるため、事業内容を小学校・中学校・高等学校・特別支援学校と個別の検討が必要です。

(3) 第4次計画に向けた課題

- ① 第3次計画では、乳幼児と小中学生への読書活動を推進する事業を重点として取り組みました。しかし、中学生や高校生を対象とした事業が少なかったため、第4次計画では、その拡充が課題となります。

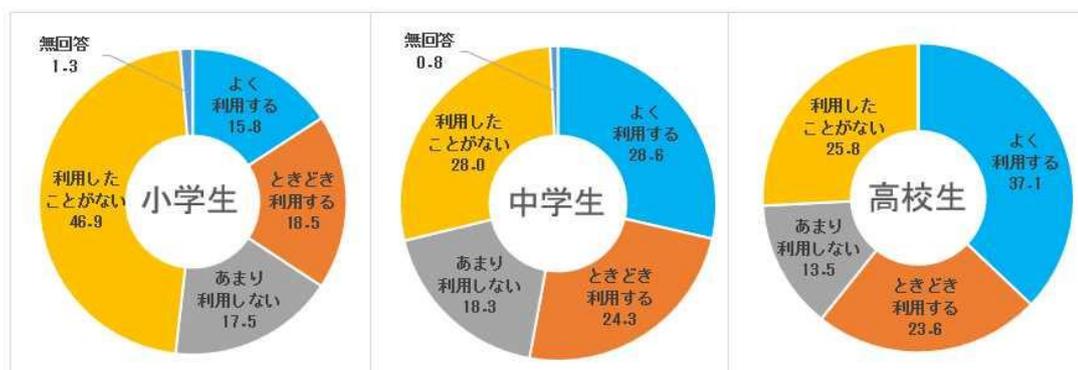
例えば、横須賀市立図書館のホームページを活用して、ヤングアダルト書籍（中高生向け書籍）を紹介するなど、市立図書館や学校図書館に行く時間を作ることが難しい中高生に対応した事業の検討が必要です。

- ② 読書活動推進の一翼を担う電子書籍の導入が検討課題となります。市内小中学生に1人1台の端末が導入されたことから、デジタル書籍の活用方法を検討することが必要です。

ただし、電子書籍の活用には、対象年齢を考慮する必要があります。乳幼児期の五感で読書をする（言葉を覚える）時期には、紙の本や、読み手の生の声を届ける必要があります。保護者など大人との対面による、表情や雰囲気は伝わるやりとりを大切にすることも必要です。

～横須賀市の児童生徒の読書実態調査から～

電子書籍の利用



(%)

- ③ 子どもの読書に対する興味・関心が広がるような市立図書館の環境整備が必要です。子どもの主体的な学習の場としての市立図書館の役割や、学校図書館に行く時間がない中高生へ、市立図書館ホームページでの図書情報提供など、ハード・ソフト両面での環境整備が課題です。

- ④ 指標の見直しが必要です。読書のとらえ方が時代と共に変化しているため、読書に電子書籍を含めるかなど、言葉の定義を明確にすることや、近年、若年層の人口減少が著しいことを勘案した成果指標を設定する工夫が必要です。
- ⑤ 障害の有無にかかわらず、すべての子どもが読書による文字・活字文化の恩恵を受けることができるようにするための取組の検討が必要です。
- ⑥ 新しい生活様式（※1）に対応した、事業内容の検討が必要です。

（※1）新しい生活様式とは、新型コロナウイルス感染拡大予防策を実施する新たな生活ルール（換気、人との距離を保つ、マスク着用、飛沫を遮断するアクリル板やビニールシートの設置など）